

市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045(661)0166

会長挨拶

横浜市仏教連合会長 滝川 覚道

厳しい残暑もようやくやわらいで朝夕涼ぎよい季節となりました。市内寺院御住職を始め寺族の皆様お元気で二利御双修のこととお慶び申し上げます。

昨年の冷夏、米の不作とは逆に今年の夏は猛暑が続き、各地では水不足のため断水等でお困りの地域も多かったようですが、大きな被害に至らなかっただけでも有難いことと存じます。



去る六月二日西有寺会場に於て市仏総会が開かれ別記の通り本年度の事業計画及び予算案が承認されました。昨年度を継承して三役を始め関連諸役は更に円融発展を期したいと意欲を燃やしています。今後共御協賛御支援を賜り度くお願い申し上げます。

六月八日に予定通り仏跡参拝を実施しました。増上寺と都庁の見学、とげぬき地蔵を巡拝しましたが、釈尊奉讃会員を含め寺院檀信徒を中心にバス六台、二一六名が

参加して盛会でした。こうした機会に参加して視野を広め仏縁を結ぶ方々が更に増加されることを願っています。

猛暑の七、八月は市内寺院に於ては孟蘭盆の法要墓参とお施餓鬼の季節、どちらのお寺でも糊経や年に一度の大せがき会で御苦勞が多かったと存じます。御自愛を願うと同時に、こうした機会にこそ檀信徒とのコミュニケーションと教化が期待されます。

さて余談になりますが、毎年八月の猛暑の最中、甲子園に於いて全国高校野球選手権大会が開催されます。例年のことながら忙しさの合間に観戦します。郷土の母校には特に声援を惜しみません。今年の横浜高校、期待されていたのに初戦での惜敗は残念でした。ふるさと地元への関心と期待がこんなに大きなものだったかと、つくづく感じます。

ところで野球を観ながら感じたことは、選手達がまるで仏道修行者と同じように見えて来たことです。ルールを守り競技への意欲を燃やすさわやかさは「発心」、日頃の練習の成果で予選を勝ち抜いた鍛練は「修行」、すぐれた監督のきめ細かい指導は「良師」、状況判断とチームプレーに徹することとは「協調・連帯」、家族友人や観客の声援は「助縁」、一投一打に気力を充実した集中力は「三昧」、ツキと云う不思議な運氣を「

加護」、こんな風に観てくると、野球そのものが仏道修行の実践のように思えてならない。何よりも本気になって立ち向う姿勢こそ大事にしたいものです。

最後に御案内を申し上げます。来る十一月二十四日(木)～二十六日(土)は釈尊奉讃会と共催で四国遍路巡礼の旅を実施します。特に心に残る霊蹟をピックアップして無理のないコースを取入れました。パンフレットを御覧の上、御住職を始め寺族檀信徒の方々の御参加をお待ちしています。

本会役員名簿

- 名誉会長 梅田 信隆
- 顧問 志村 慎吾
- 顧問 柳 下隆 侃
- 顧問 森山 正城
- 参与 福永 隆昭
- 参与 横山 敏明
- 会長 滝川 覚道
- 副会長・会報編集指導 玄野 孝善
- 副会長・専務理事 川上 敬吾
- 会計 橋下 賢明
- 事務委員長 斎藤 隆法
- 墓地委員長

- 奈良 光雄
- 会報担当理事 備前 恭忍
- 監事 野沢 隆幸
- 監事 内野 公雄
- 顧問弁護士 遠藤 隆也
- 他役員一同

今秋は「お四国遍路の旅へ」弘法大師の足跡をたずねて

主催 横浜市釈尊奉讃会
 期日 十一月二十四日(木)～二十六日(土)

会費 八三、〇〇〇円

申込締切 十月末日

申込方法 各菩提寺様まで
 平素の釈尊奉讃会への御協力に深く感謝を申し上げます。今年はいを再び自身自身の心にもどし、「自身の修行」に、焦点をあてたいものです。四国の石手寺、雲辺寺、善通寺、金倉寺、道隆寺、石鏡山、満濃池等、お大師様ゆかりの四国の寺をめぐる、人の心にもふれることで私たちの身心をみがきたいのです。それが釈尊を奉讃する私たちの行くべき道の一つかと思えます。どうか宗派や会員の有無を超えて多くの同行の人のご参加をお願い申し上げます。

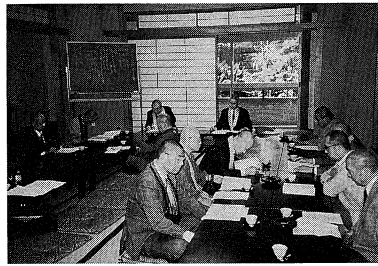
問い合わせは左記の処へ
 事務局 東照寺 程木徳明
 港北区綱島西一―三―一五
 電話〇四五―五三一―一七八三

第二十一回総会開催

平成六年度市仏連第二十一回総会は六月二日午後二時から中区大平町西有寺において開催されました。総会次第の順にしががいました。先ず開会の言葉を市仏連副会長玄野孝善師よりいただきました。続きますまして市仏連会長滝川覚道師より挨拶をいただきました。挨拶の中で会長は昨年五月就任以来一年間会員各位のあたたかいかいご協力をいただき務めてきましたが二年目にあたり事業計画案にあるとおり、税務基地の両委員会の委員会活動と積尊奉議会の会員増強とに力を入れ市仏連の事業の尚一層の充実をはかるべく会員各位の絶大なるご協力をお願いしたいとお言葉をいただきました。

引き続き議長の選出にりましたが本部一任ということで戸塚区仏教会会長吉水法雄師が選出されまして議長席につかれ議案の審議に入りました。第一号議案の平成五年度事業報告について川上敬吾専務理事が説明し、第二号議案の平成四年度決算報告について橋下賢明会計より説明があり、第三号議案の会計監査報告が野沢隆幸監事より発表されました。第四号議案で以上三議案の質疑応答に入り全て異議なく拍手をもって承認されました。続いて第五号議案平成六年度事業計画案の説明が専務理事よりなされました。事業のうち第二十回涅槃会は鶴見区仏教会が担当に当たっておること、市仏連会報は

三十九号、四十号が発行されること、税務基地問題の研究など実施することが説明されました。第六号議案平成六年度予算案の説明が会計よりなされました。第七号議案で以上二議案について質疑応答がなされた結果、両議案とも原案通り承認可決されました。第八号議案の役員改選の件について現役員は本年度で任期が終りますので次期役員を選考するための委員会をローテーション通りに発足する



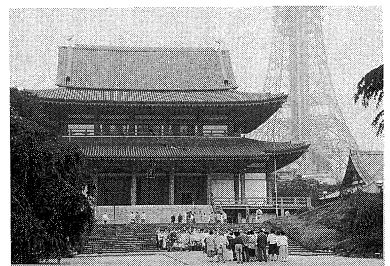
ことに決まりました。尚今回の役員選考委員会の委員は、磯子、戸塚、金沢、栄、瀬谷の以上五区仏の会長に就任していただくことになりました。第九号議案仏跡参拝旅行の件について本年度は芝の増上寺、東京都庁舎、巣鴨のとげぬき地蔵高岩寺へのバス旅行となり、また定員に余裕があるのは非参加をとの説明がなされました。第十号議案のその他には特別何もないとのこと、以上で議案審議は

とどこおりなく終了し閉会の言葉を玄野副会長が述べて第二十一回総会は無事終了することが出来ました。終了後懇親会をもち出席者は各宗、各区仏にまたがっておるので懇談のなかに大へん為になる話が多々あり有意義なひとときであった。なごやかなうちに午後五時頃お開き散会致しました。いつもながら会場の西有寺の皆様方には大へんお世話になり心から感謝致しておる次第です。川上敬吾記

第十一回春の参拝旅行 増上寺、とげぬき地蔵へ

第十一回当市仏連春の参拝旅行を六月八日に実施した。バス六台・約二三五名の参加者があった。朝八時半から九時頃に東京都港区芝にある浄土宗大本山増上寺に到着した。大きな三門脇の掲示板の文句が目止まる。「よくばりなわたし、おこりっぽいわたし、ぐちっぽいわたし、でもそのまま、如来さまに、おまかせして、救われるのね」。元和八年(一六二二)建立の三解脱門をくぐって境内へ一歩入り。眼前に大殿と東京タワーが圧倒的迫力で飛び込んできた。その二つを背景にバス毎に記念写真を撮る。

三十五億円の巨費と四年の歳月をかけて昭和四十九年に建立された大殿に入る。大本山増上寺の本堂は広い。ご本尊阿弥陀如来像は内陣の一段高い須弥壇に安置され照明によってお姿が柔らかに浮かびあがる。両脇陣には高祖善導大師と元祖法然上人の尊像も祀られ



ている。落ちついた採光は静かで厳かな雰囲気を出す。大都會の欲望と喧騒の渦巻く場所にあつて、樹木が多く緑深い広大な境内と相俟った増上寺は、まさしく寂光浄土であると感じた。

川上敬吾市仏連副会長の音頭で槃若心経を唱和し合掌焼香とで法樂を捧げた。滝川覚道市仏連会長のご挨拶に続き、大本山増上寺の教務部長の金田進徳上人のお話を拝聴した。開山より約六百年の寺歴があり、徳川家康公帰依により、江戸時代には將軍家菩提寺としてその保護のもと大寺院へと発展した。明治時代より昭和二十年頃までは三度の大火にあい灰燼と化すなど苦難の時代を歩む。今日、檀信徒の信仰のおかげで伽藍を整え、東京を代表する寺院として復興し、宗教と文化の活動の拠点となる。

いのちを粗末にする若者が多い時代風潮を憂える。暴走族の少年が誤って、〇mの崖から海中に転

落し若き命を絶った。「オレの勝手だろ」と親に反抗して、深夜の道乗り回したうえでの事故である。やなせたかし作詞、いずみたく作曲の「ぼくらはみんな生きている」。生きているから嬉しいんだ。手のひらを太陽に透かしてみれば、真っ赤にもえるほどの赤い血潮、オケラだって、ミミズだってアメンボだって、みんなみんな生きている、生きているから幸せなんだ」の歌がある。ご先祖からの命をいただいている。この中のたった一人でも一匹でも絶滅を招くような大間違いをしたら、今の私は無い。みんな生きている、命をしっかりと考えてほしい。

息づく命のありがたさを如来の教えの中で見出し出して下さい。切れれば赤い血が吹き出る。この歌の意義を生活に即して子供達に教えた。共生はお釈迦さまの智慧と慈悲にもとづく。みんな生きていることを根本に据えて住み良い環境と社会を作ろう。さわやかな初夏の好季節、今日の日、心すがすがし巡拝ができますよう祈念申し上げます。

安国殿と黒本尊を参拝する。そこで朱印帳に書いて貰い、お守りやテレホンカードを求めた。自由に境内を散策したり、休憩したりでゆっくりに過した。徳川將軍家墓苑を訪ねた。寺域の植込みの手入れや除草にと沢山の人が汗をたらし働いていられた。晴天に恵まれた一日となった。多くの碑の中に「月影のいたらぬ里はなければどもながむる人の心にぞすむ」法

横浜市市仏教連合会 平成5年度収支計算書

収 入 の 部			
科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 △
①会費収入	1,299,000	1,212,000	
1. 会 費	1,299,000	1,212,000	
神 見 区	105,000	105,000	
神 奈 川 区	87,000	87,000	
港 北 区	177,000	177,000	
緑 区	180,000	180,000	
西 区	87,000	0	
中 区	69,000	69,000	
保 土ヶ 谷 ・ 旭 区	84,000	84,000	
南 ・ 港 南 区	168,000	168,000	
磯 子 区	57,000	57,000	
金 沢 区	78,000	78,000	
戸 塚 区	105,000	105,000	
泉 区	36,000	36,000	
栄 区	42,000	42,000	
瀬 谷 区	24,000	24,000	
②雑入金	500,000	357,350	
1. 雑 入 金	100,000	156,350	
2. 寄 付 金 及 繰 入 金	400,000	195,000	
③過年度取入金	0	0	
1. 会 費	0	0	
④前年度繰越金	340,290	340,290	
1. 前 年 度 繰 越 金	340,290	340,290	
取 入 合 計	2,139,290	1,903,640	

監査の結果 相違なしとを認めます。
 平成6年5月15日 監査 内野公雄 (印)

支 出 の 部			
科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 △
①総務費	300,000	286,894	
1. 事 務 所 費	100,000	100,000	
2. 事 務 渉 外 費	150,000	150,000	
3. 通 信 交 通 費	50,000	36,894	
②需要費	160,000	149,256	
1. 会 議 費	110,000	139,256	
2. 慶 弔 費	50,000	10,000	
③事業費	1,190,000	1,026,420	
1. 税 務 基 地 委 員 会 費	100,000	0	
2. 程 度 法 委 員 会 費	400,000	400,000	
3. 会 報 発 行 費	250,000	266,420	
4. 奉 獻 会 事 業 協 力 費	300,000	300,000	
5. 仏 陀 参 拜 費	140,000	60,000	
④助成金・負担金	120,000	60,000	
1. 助 成 金	70,000	40,000	
2. 負 担 金	30,000	20,000	
⑤雑支出金	120,000	100,000	
1. 過 年 度 支 出 金	0	0	
2. 雑 支 出 金	120,000	100,000	
⑥予備費	249,290	0	
1. 予 備 費	249,290	0	
合 計	2,139,290	1,622,570	

次年度繰越金 281,070円
 平成6年3月31日

上記のとうり収支決算書を提出致します。

横浜市市仏教連合会 会長 滝川寛通 (印)
 会計 橋下賢明 (印)

横浜市市仏教連合会 平成6年度歳入歳出予算書

歳 入 の 部			
科 目	予 算 額	前年度予算額	差引増減 △
①会費収入	1,299,000		
1. 会 費	1,299,000		
神 見 区	105,000		
神 奈 川 区	87,000		
港 北 区	177,000		
緑 区	180,000		
西 区	87,000		
中 区	69,000		
保 土ヶ 谷 ・ 旭 区	84,000		
南 ・ 港 南 区	168,000		
磯 子 区	57,000		
金 沢 区	78,000		
戸 塚 区	105,000		
泉 区	36,000		
栄 区	42,000		
瀬 谷 区	24,000		
②雑入金	300,000		
1. 雑 入 金	100,000		
2. 寄 付 金 及 繰 入 金	200,000		
③過年度取入金	87,000		
1. 会 費	87,000		
④前年度繰越金	281,070		
1. 前 年 度 繰 越 金	281,070		
合 計	1,967,070		

歳 出 の 部			
科 目	予 算 額	前年度予算額	差引増減 △
①総務費	300,000		
1. 事 務 所 費	100,000		
2. 事 務 渉 外 費	150,000		
3. 通 信 交 通 費	50,000		
②需要費	160,000		
1. 会 議 費	120,000		
2. 慶 弔 費	40,000		
③事業費	1,140,000		
1. 税 務 基 地 委 員 会 費	240,000		
2. 程 度 法 委 員 会 費	400,000		
3. 会 報 発 行 費	300,000		
4. 奉 獻 会 事 業 協 力 費	100,000		
5. 仏 陀 参 拜 費	100,000		
④助成金・負担金	120,000		
1. 助 成 金	70,000		
2. 負 担 金	30,000		
⑤雑支出金	100,000		
1. 過 年 度 支 出 金	0		
2. 雑 支 出 金	100,000		
⑥予備費	147,070		
1. 予 備 費	147,070		
合 計	1,967,070		

平成6年4月1日

上記のとうり歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市市仏教連合会 会長 滝川寛通 (印)
 会計 橋下賢明 (印)

支部だより

栄 区

市仏連会報の栄区仏だよりは会員寺院の自坊紹介を連載しています。このたびは当寺にスポットをあてて頂きまして嬉しゅうございます。

当寺は何分にも興廃を繰り返す、明らかでない部分も多うございませうが、ご案内申し上げます。

法安寺縁起(浄土宗)

当寺は南北朝期の創建で、戦国時代には小田原北條氏の支持を受けて中興しました。江戸時代には千葉の生実(おゆみ)藩森川氏の後援を受け、一萬石の藩主寛永四年(一六二七年)に笠間の知行地となり、笠間の旧家の人達とて当寺は維持されるに到りました。元禄七年(一六九四年)、鎌倉郡札所巡りが始められ、当時は観音札所となりました。新編相模国風土記稿の法安寺関係記述では観音堂、地藏堂を持ち、寺の什物帳には、森川氏から寄贈された、仏画等の記載があつて、相当の経済援助があつた事がうかがわれます。当時の古文書に「境内に池があり、祠内に弁財天を祀る」とあります。弁財天座像は現在も当寺にあり、大本山光明寺におはすそれとまったく同じ一面八臂の正しい弁財天のつくりで、小さいながら温容な、そして力強い姿です。明治十一年(一八七八)には鎌倉建長寺の客殿を買い取つて移築し、本堂にしました。その後、笠間地区の住居者も増し、当寺廿



石観音 栄区法安寺

八世の先代文雄和尚が、昭和四十九年五月、設計家大岡氏による方形造りの鉄筋コンクリートの本堂を完成致しました。当寺の仏像の中で、檀家に親しまれているのは弘法大師彫りの観音石仏です。それに加えて、堂外には江戸期の石仏が多々あり、「観音、石仏の寺」の様相を呈しています。本尊は阿弥陀如来の三尊形式で、観音勢至がやや腰をかざる姿勢です。衆生を運のうてなのお浄土に救い取つて下さる有難いお姿です。

当寺の石観音の御影がすり込まれているお札の詠歌は「われを見よ石にかたはりのりやすく、月ほ水にかげはずしき」とあります。文責 法安寺住職 戸谷康汎

金 沢 区

- 当区仏の活動内容ならびに関係事項を左記に列挙致します。
- 2・10 午前十一時 於染王寺 染王寺第二十八世・成善大和尚(享年八十七歳)本葬儀、区仏より弔辞を呈し、花環、香料を供へ弔意を表す。
- 2・11 午後一時半 於高松寺 市仏連第十九回涅槃会に参列。
- 2・13 午後四時 於は満壽司 区仏花祭り釜利谷地区実行委員会に地区寺院と会長、副会長、会計が出席。
- 2・15 午前十時半 於伝心寺 区仏第三十四回涅槃会厳修。寺

院十三ヶ寺、来賓・役員十四名 講中八十一名参加。

3・5 午後五時 於登美雅スシ 第四十八回花まつりの件、釜利谷地区主任満蔵院、会計金蔵院(資)、臨時総会十五名出席。

3・17 午後三時 於金沢園 奉讃会定例役員会十一名出席、仏教会三役同席。三谷温泉旅行決算報告の件、六月に予定の日帰り旅行の件。

4・2 午後二時 於ルンビニ園 釜利谷地区花まつり大会準備日。寺院、仏婦、(資)共、二十五名出席。

4・3 午前八時 於ルンビニ園 第四十八回花まつり大会、釜利谷地区、晴天、サクラ五分咲き、稚児五十八名参加、寺院と仏婦と(資)共三十六名参加。

4・18 午後一時半 於区役所 第二十回金沢まつり実行委員会、副会長出席、議題、日程、予算等の審議承認。約八十名出席。

5・7 午後三時 於龍華寺 龍華寺住職退任後に名誉住職就任、並びに龍華寺新任職普山式会長出席。

5・9 午後五時 於時田壽司 区仏理事会に三役、各主任、地区理事出席。(総会の日程、区仏決算報告と予算書、花祭決算報告、涅槃会決算報告、文化講演会の件、交通安全の日程、会場)

5・26 午後四時 於光伝寺 区仏定期総会 平成五年度会計報告、区仏決算報告と予算書、花祭決算報告、文化講演会の件

交通手段の日程、会場、その他関係行事の件。

6・2 午前七時出発、積尊奉讃会日帰り参拝旅行、塩船観音と奥多摩の旅、晴天、バス三台、一八八名参加。

7・1 於染王寺 教化新聞『慈光』九十二号・お盆号発行。

7・1 於泥牛庵 金沢の霊場めぐり(増補・改訂版) 企画・編集、金沢区仏教育青年会

7・22 午後四時 於金沢園 積尊奉讃会役員会、塩船観音参拝旅行の会計報告。仏教会長、副会長、会計、出席。

戸 塚 区

三月、公私の要職が多く、多忙という事で辞任された前西尾会長から、副会長であった私が会長をお受けしました。

そこで寺院の親和、連帯感もちつつ、組織の充実、行事の活性化を図ることを目標にいたしました。

戸塚区の行事について 二月十一日午後一時より市仏、積尊奉讃会共催の「涅槃会」、そして四月七日午後二時よりの「花まつり」行事に多数の方々の参加をいただき無事終了。会場の高松寺様には檀家の皆様の一休となつたご協力、また、おいしい抹茶の接待を受け、感謝の気持ちは言葉にいい得ません。参加した方々に行事のもつ意義とその心が深く焼き付き、生かしてほしいと考えております。

戸塚区は泉、栄区と分区されて

も多数の寺院があり、宗派の分布歴史が異なっております。そして東京都からの寺院の移転があり、特徴を生かし共に手をとりあつて結びついていく必要があります。

仏教の使命は物質的な恵まれではなく、精神の充実であります。このところの政治、経済、文化の変動に対して仏教からの対応をするためには、いつもの研修が大切と考えております。文責 吉永法雄

港 北 区

港北仏教会恒例の花まつりを妙蓮寺釈迦堂をおかりして厳修いたしました。幼稚園児の白象のおねりと、観音寺、保福寺様のご詠歌の方々の参加により盛会に終ることができました。四月には、税務署、税理士を招いて税務相談会を開催いたしました。各寺院から熱心な質疑応答があり、盛会におわりました。七月には、鶴見川の花火大会では、会員のご協力により灯籠流し供養を厳修いたしました。雨の中の流灯は、水にとける灯籠ですので組立てるのに大変でしたが、夕ぐれの水面上に区仏寺院の読経の中に、一千灯の灯籠が各家の先祖の諸精霊あかれと、水面に映える中に終わりました。ご随喜くださいました諸大徳に厚くお礼申し上げます。十月には、具慰霊堂の法要を勧めさせていただきます。

十一月六日には、港北区が分区いたします。中川地区仏教会は、都筑区に編入されます。最後に、会員相互の親睦をはかるために忘年会も計画しています。

瀬谷区

平成六年度総会を四月十五日に宝蔵寺様で開いた。今年度会費を集める。八福神の案内記と朱印帳を兼ね合わせたものを作る方向に話が進んだ。印刷社の担当者呼び色々と検討を加え、七月初めに写真と原稿を渡すことを決めた。

四月八日に八福神めぐりをされた方の撮った各寺の花御堂の写真が話題になる。昔は椿の花などを糊で御堂の屋根にくっつけて飾った。甘茶も大釜で何杯も沸かし、参詣者に飲ませた。何回も行列に並んで竹筒に入れて貰って行く人もいた。境内に甘茶の木を植えて、砂糖の代用品として使った。今では漢方薬店で甘茶と甘草のまぜ合った物を買ってくる始末だ。甘味の品が手に入らない頃には、本当に甘露な美味しい飲物だった。花まつりは華やかな楽しい行事だった。子供にとって寺での唯一の娯楽だったから人出も多かったのだらう。徳善寺では四月八日に短歌会も催すので、向拜に出した花御堂の誕生仏像に甘茶をかけて参拝する人が多い。区内の或る子供が甘茶のはしごをしてきたと言ったので、どこの寺のが美味しいかあったかいと聞いてみた。全部うまくいったよと答えが返ってきた。区仏で毎年道場を替えて、合同花まつりを開催するのも地域仏教活動として必要な時期にきていると思う。日時は四月八日を選んで宮めばよい。考えておいて下さい。

八月二十五日に妙光寺様で会合して八福神の新パンフレットへ

朱印帳兼用)のゲラ刷り校正と見積り書検討。三万枚発注した。寿老人が最勝寺から下瀬谷全通院勢至堂(徳善寺持)へ転座するための改訂版発行である。

藤村宣 浄師

瀬谷区上瀬谷町八一三

日蓮宗 蓮昌山妙光寺住職

藤村宣浄師(第五十一世撰党院日笠上人)は平成六年八月六日、七十七歳を以って遷化された。密葬儀は八月九日遺弟遺族にて相宮まられた。妙光寺在職歴は昭和二十七年六月より平成六年五月までの四十二年間に及び、寺運発展に務められ多大な功績を残された。瀬谷区仏教会長職に昭和五十一年二月より昭和六十三年五月まで就かれ立派に責任を果され、市仏連常務理事としてもご尽力を頂いた。願くば増田妙道ならんことを。本葬儀は来たる十月六日(木)午後一時より、本山本興寺貫主浅井玄裕親下を大導師に拝請して厳修された。法嗣住職は秋山智謙師である。



横濱市仏教連合会 参拝記念 於 蓮上寺 平成六年6月8日

泉慰霊堂出仕当番表

- 平成六年十月五日 港北区仏教会
平成六年十二月七日 金沢区仏教会
平成七年二月六日 中区仏教会
平成七年四月五日 保土ヶ谷・旭区仏教会
平成七年六月五日 鶴見区仏教会
平成七年十月五日 戸塚区仏教会



平成七年度役員

選考委員会の発足

現役員である市仏連会長・副会長・専務理事・会計・監事・会報担当理事等の任期は会則によって二ケ年となっているため、平成七年三月末日が期限である。任期満了まで全力で務める覚悟である。新年度役員は選考委員会によって新役員を内定し、理事会にはかり総会において発表し承任を得て就任の運びとなる。

選考委員会名簿

- 鷺津興勝師 (磯子区仏教会長)
吉水法雄師 (戸塚区仏教会長)
安田旭成師 (金沢区仏教会長)
塩沢栄一師 (栄区仏教会長)
尾崎正恵師 (瀬谷区仏教会長)

事務日誌

- 3・2 弔電 港北区仏光明寺
3・14 三役会 於海照寺
4・6 祝電 鶴見区仏花まつり
4・6 祝電 西区仏花まつり出席
4・18 連発 諸役会案内
4・27 諸役会 於浪漫茶屋
4・29 祝電 緑区仏円光寺
4・29 祝電 神奈川区仏観音寺
5・1 連発 総会案内
5・10 連発 理事会案内
6・2 第二十一回総会於西有寺
6・8 仏跡参拝旅行 増上寺
6・8 とげぬき地蔵高岩寺
8・10 連発 三役委員会案内
8・19 三役委員会 於浪漫茶屋
8・20 連発 会報原稿依頼
8・20 連発 奉讃会だより配布

とげぬき地蔵尊 御影 東京兼嶋

編集後記

◎何よりも本気になって立ち向う姿勢こそ大事にしたいものです。八月十九日に残暑と疲労をものかわともせず、役員会を招集して、市仏連会と釈尊奉讃会の事業計画の遂行に万全を期され、地域仏教会も大切と説く滝川会長に感服する。◎今夏は猛暑続きで水不足が西日本を中心に深刻である。テレビニュースで各地域の仏事、神事の雨乞いの模様を見た。皆、真剣そのものである。頼まれて請雨法を修した友人などは三日間で降雨がないと法験が疑われるとあって、水源地の気象情報を気にしていた。◎読売新聞社の世論調査「宗教に関する国民意識」を見る。世代間わず薄らぐ信仰心。人々が宗教をあまり重要と感じなくなっている。若し、若し世代とそれが顕著ならば、宗教界にとって大問題なはずなのに、対応することの困難さが明らかにあったと解説者が記述。◎宗教のイメージの悪化の一因は現実の宗教団体への不信感である。金もうけに熱心、強引な布教、政治とのつながりの強さ、宗教活動が形式的、と根深い不信を持ち、厳しい批判の目を向けている。墓参りは習俗でしてただけという人が多いなどの記事は衝撃的事実。